

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	「地域人材の育成（研修プログラム開発）」と育成事業を通じた「国際競争力を備えた地方拠点のインフラ整備事業」		
学校法人名	学校法人 創造社学園		
学校名	専門学校 飛騨国際工芸学園		
代表者	理事長 明上 友幸	担当者・連絡先	松村 眞吾 shingo@sozosha.ac.jp

<事業の概要>

平成16年度事業（日本版デュアル）を基盤に地場産業（飛騨高山/木工家具）の活性化に資するよう①地域ニーズの高い分野で人材育成・研修プログラムを開発、②同プログラムの継続に必要な産官学で構成される事業枠組みの構築、③コンテンツが自律的に進化する発展型のコミュニティー（インフラ）の開発を行った。

<成 果>

【1】事業成果と継続課題

まず初めに、この事業の成果は、「地域人材育成協議会」を地域に根ざせたこと、又、継続性を持ち発展させる可能性を担保出来たことです。

今後、H18年4月より当委員を含め正式に正会員への組み換え作業を行い、7月より協議会の事務所の発足し手続き関連整備、賛助会員の募集、発足準備を経て、10月に正式な柿落としを行う予定です。

(1) 「人材育成・研修プログラムの継続に必要な産官学で構成される事業枠組みの構築

①鮮度が高く時代性のあるテーマを適宜、必要に応じて取り上げることのできる組織体系化（会則、運営システム、講座開発のシステム）。

②運営を担保（受講者募集・運営維持）する枠組み（シンジケート）編成。

(2) 地域人材育成プログラムの講座開講に必要となる開設時に必要となる講座プログラムと、

この研究開発を通して「実証講座40講座・シラバス執筆64講座」に携わって頂きました多くの講師の拡充が図れた点。又、実際に地域に行われていない、新しい視点の地域に根ざした育成プログラム体系が開発されたことです。

(3) コンテンツが自律的に進化する発展型のコミュニティー（インフラ）の開発

上記の飛騨地域人材育成協議会の運営のインフラ並びに、【飛騨地域人材育成協議会コミュニティーサイト】として立ち上げた点。

《URL: <http://www.hidakagu-college.com>》

【2】事業評価（事業を通して明らかになった課題やそれについての考察）

この研究開発では、「地域に根ざした人材育成」を主眼において研究開発を行いました。現在、飛騨地域でも様々な講座・セミナーを行っていますが、その多くは都会のシステムや先端事例などをそのまま持ち込んだものが大半を締めており、その情報の多さや他分野の実績を見ると地域は比較や多様化に目を向けてしまい固有の基盤の活かせなくなっています。

当研究開発では、飛騨地域固有の文化、技術（匠）、産業が持つ「ものづくり」を支える基盤を再度見つめ直し、これからの時代に相応しいものを「再発掘（特化）」することが付加価値を高め、この地域のブランド価値を向上させ、それらが国際競争力の強化につながると考えています。

それらの人材を育成するには、地域で「ものづくり」に取り組む人々やこれから取り組む人々へ、個々の潜在能力の「再発掘」と「特化」させることができる「育む情報」を持続発展的に供給することが重要なこととなります。高度に進化した「日本では」持ちえる地域の智財・知財を特化することこそが武器となり、その特化を「育む」ことに努める必要があります。今回の研究開発は、そうしたスタンスに立っております。

今後もこの研究開発の成果を活かし、地域のステークホルダー並びに、他地域の様々な専門分野の人材と連携し、世界の様々な情報（旬なテーマ）をキャッチ（目利きとなる）し、継続的にそれらの情報発信（講座・セミナー展開）を行う取り組みの中で、文化・技術・等の交流の場を創出していきたいと考えております。又そのつながりの中から生み出される新たな付加価値を発展的に提供を行い、地域全体への波及効果を目指します。

日本は今も世界に特化した優れた能力を打ち続けています。ただ、総合力やグローバル化の中で「特化」することを忘れています。今こそ「再発掘」が重要です。

《地域固有の基盤を知り、技術を操り、それらを社会に活かす》